

ごみ減量化マイスター



令和元年度
上郷地区
村田文男さん

令和2年度
春和4区
野澤敬三さん

令和3年度
馬場地区
戸口啓子さん

令和4年度
関堀地区
小泉満彦さん

ときがわ町役場
建設環境課 環境担当



畑

伊藤

可燃ごみを減らすあらゆる工夫に挑む！

ごみ減量化モデル地区



なるべく減らしたい可燃ごみ。ごみの排出量全体のうち約8割を占める可燃ごみは、可燃ごみ全体のうち生ごみが約4割、資源化できるごみが約2割あるといわれています。

それらの徹底した減量化を、1年間にわたり取り組んだ地区があります。「ごみ減量化モデル地区」と呼ばれるその地区は、令和元年度から始まり、1年に2か所の行政区から各15世帯にご協力をいただき、下記の取り組みを行っています。令和4年度までに8地区120世帯にご協力いただきました。

それでは、モデル地区は減量化による効果をどれほど上げたのでしょうか。令和3年度の実績をグラフ3に表しました。可燃ごみの排出量を、町内全体とモデル地区それぞれにおいて、最初の3月は分別を意識しない基準月として設定し、基準月と事業を始めた各月を比較して、どれだけの割合が増減したのかを示したものです。町内全体とモデル地区を比較すると、最大で28.5ポイントの減量、平均で約18.5ポイントの減量ができたことがわかりました。意識して取り組むことで、可燃ごみは大きく減らすことができるのです！

なお、ご協力いただいた世帯の方は、ごみ減量化マイスターとして認定をさせていただきます。



モデル事業を行うと「意識が変わる」

畑 本日はごみ減量化マイスターの皆さんに、モデル地区の取り組みについて伺います。このモデル地区では、「徹底したごみの分別（特に雑がみ）」「週2回の可燃ごみの重さ測定」、「月2回の資源物の重さ測定」、「台所ごみの水切り」など、大変な取り組みを1年間していただきました。いかがでしたか。

村田 取り組んで本当に良かったと思います。減量化を意識する人が増えて、現在も継続して



います。家族の中でも、関心のなかった子どもたちが、燃える燃えない程度の分別しかしてなかったのが、分別ルールに従って分けられるようになりました。野澤 1か月ならまだしも、1年だと抵抗があるようで、断られた家庭もあります。戸口 こちらも断られた家があったのですが、結果を評価されると感じただんだと思います。そんなことはなく、あまり深刻に考えずに、「意識を高めるものだ」くらいに考えていけば取り組みやすいと思います。私は、まずまずごみカレンダーを見るようになり、分別を意識するようになりました。特に夫は、始めるまでにごみに無関心でしたが、自分から聞いて考えるようになりました。以前はベットポ

集積所のごみも変わった

村田 あとは、集積所のごみの量がだいぶ減りました。

重要！ → 雑がみとは

新聞、雑誌、段ボール以外の紙類のこと。ティッシュの箱やお菓子の箱、紙袋や包装紙、ハガキ、封筒、コピー用紙、トイレットペーパーの芯など。これらは、新聞などと同様に、資源回収の日（水曜日）に出すことができます。可燃ごみに出さず、資源回収に出しましょう。



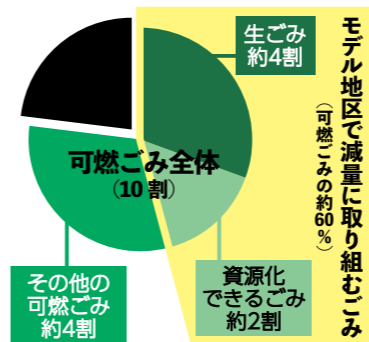
モデル地区の実践内容

- ✓ 徹底したごみの分別（特に雑がみの資源化の徹底）
- ✓ 生ごみの減量化（コンポスト等の活用による自家処理や、水切りの徹底）
- ✓ 剪定枝や刈草の自家処理または堆肥化
- ✓ 可燃ごみ（週2回）と資源回収（月2回）の重さ計測

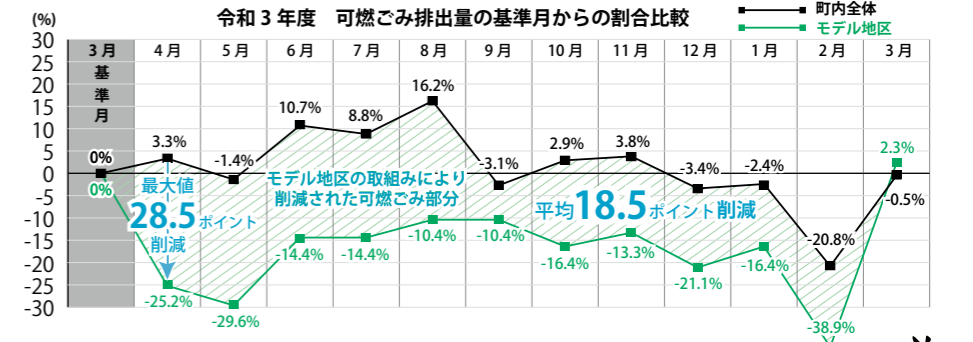
これまでの実施地区（各地区の15世帯）

【令和元年度】 上郷地区・番匠1区 【令和2年度】 春和4区・番匠台区
【令和3年度】 仲井1区・馬場地区 【令和4年度】 田黒地区・関堀地区

グラフ2 減量化の対象となるごみ※3



グラフ3 モデル地区の取り組み実績※4



他にも

モデル地区にご協力いただいた方のアンケートからは、嬉しい声が続々！

- ✓ 可燃ごみのごみ出しが週に1回で済むようになりました
- ✓ 袋が軽くなってごみ出しが楽になりました
- ✓ 家族でごみ出しを意識するきっかけになりました

野澤 指定日前に出されるごみが格段に減ったと感じますね。戸口 私の出す集積所はほとんどの方がルールを守れているのできれいです。ごく一部のルールを守れていない方がいるのがとても残念です。また、どの地区もそうですが、枝や草のごみが多いのが気になります。でも山や畑で処理できない方は出さざるを得ないのが現状だと思います。



※3※4 広報ときがわ令和4年8月号参照。